

## 会 議 錄

会議の名称	第3回上尾市総合計画審議会		
開催日時	令和7年7月17日(木) 10:00~11:05		
開催場所	市役所本庁舎3階 庁議室		
議長(委員長・会長)氏名	上尾市総合計画審議会 会長 八木 規子		
出席者(委員)氏名	荒川 昌佑、小池 佑弥、斎藤 哲雄、平田 通子、前島 るり、大澤 サユリ、 酒井 憲司、高橋 吉博、土橋 康夫、三井田 晴宏、八木 規子		
欠席者(委員)氏名	岡田 真彦、今村 恵一郎、磐田 朋子、小杉 道郎		
事務局(庶務担当)	行政経営部長 堀部 弘幸、行政経営部次長 本郷 美代子、 行政経営課長 角田 広高、行政経営課主幹 福島 雅也、 行政経営課副主幹 沢辺 司、行政経営課主任 橋本 香菜子		
会議事項	1 議題 1 開会 2 会議の公開について 3 議題 (1) 第6次上尾市総合計画後期基本計画(案)について (2) その他 4 閉会	2 会議結果 報告・説明と質疑応答	
議事の経過	別紙のとおり	傍聴者	0人
会議資料	別紙のとおり		
議事のてん末・概要に相違なきことを証するため、ここに署名する。 令和 7 年 8 月 26 日 議長(委員長・会長)の署名 <u>八木 規子</u>  議長に代わる者の署名 _____ (議長が欠けたときのみ)			

## 議事の経過

	<b>1 開会</b> 定刻になりましたので、第3回上尾市総合計画審議会を始めさせていただきます。司会の行政経営部次長の本郷と申します。よろしくお願ひいたします。次第に添って、進めさせていただきます。  本日の会議は、総合計画審議会条例第6条第2項の規定に基づきまして、委員の皆様の過半数のご出席をいたしておりますので、有効に成立していることをご報告いたします。 なお、今回初めてご出席いただく委員をここで紹介させていただきます。上尾市PTA連合会副会長の高橋吉博様でございます。よろしくお願ひいたします。
高橋委員	【あいさつ】
事務局 (本郷次長)	<b>2 会議の公開</b> それでは審議会の条例第4条第2項の規定によりまして、今後の進行につきましては、八木会長にお願いしたいと存じます。よろしくお願ひいたします。
八木会長	それでは、議事の進行を務めさせていただきます。次第2、「会議の公開について」事務局より説明をお願いいたします。
事務局 (角田課長)	本審議会につきましては、審議会等の会議の公開に関する指針に従いまして、同指針策定後の初めての審議会において原則公開ということで採決されていることをご報告させていただきます。
八木会長	それでは事務局に確認いたします。 本日傍聴を希望される方はいらっしゃいますか。
事務局 (角田課長)	はい。本日傍聴希望者はおりません。
八木会長	事務局から傍聴者なしとの報告がありましたので、会議を続行いたします。
	<b>3 議題</b> それでは、次第3「議題」に入ります。議題1は、第6次上尾市総合計画後期基本計画案についてということで、事務局からご説明をお願いいたします。
事務局 (角田課長)	それでは説明させていただきます。私は、4月に行政経営課長となりました角田と申します。よろしくお願ひいたします。最初に事前にお送りし本日お持ちいただいた資料の確認をさせていただきます。 1. 次第 2. 資料1「成果指標 - 第6次総合計画後期基本計画策定に係る検討 - 」 3. 資料2「指標掲載例」 4. 資料3「事業・取組別指標一覧」 5. 資料4「体系図」 6. 資料5「計画書(案)」 7. 資料6「令和7年度スケジュール」 8. 参考資料「審議会委員名簿」

会議次第、名簿も含めまして、8種類の資料がございます。資料の不足等はございませんでしょうか。それでは説明に移らせていただきます。

前回2月13日に開催しました審議会では、現状分析や将来推計といった基礎資料についての説明と市民の声を聞くために実施した市民ワークショップ、若者会議、こどもアンケートの結果をご報告いたしました。その後、指標や計画の中身について府内で検討を進めてまいりました。本日は、現在までの検討結果についてご報告したいと存じます。

はじめに資料が前後しますが、資料6「令和7年度スケジュール」をご覧ください。本日は令和7年度最初の総合計画審議会でございます。新しく委員になられた方もいらっしゃいますので、改めて昨年度の動きと今年度のスケジュールについてお伝えいたします。総合計画は、次の5年間の計画である「第6次上尾市総合計画後期基本計画」が令和8年度からスタートします。その策定作業を令和6年度から進めており、今年度は2年の作業期間の後半の1年という位置づけとなります。作業1年目の昨年度は、本市の現状や将来推計について基礎資料をまとめるとともに、市民の声を把握するためにワークショップを開催したり、小中学生を対象としたこどもアンケートを実施したりしました。資料6は当審議会を含めた今年度の会議等の予定表でございます。8月末までに計画案をまとめまして、9月に市民コメントを行う予定でございます。10月から市民コメントを踏まえた計画最終案の検討・審議を行いまして、11月に答申をいただくという予定でございます。タイトなスケジュールでございますが、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

続きまして、資料4「体系図」をご覧ください。こちらは後期基本計画の体系図で、いわば計画の骨子にあたるものでございます。2月の審議会でも府内での検討結果による体系図をお示ししておりますが、その後さらに検討を行い変更したところを赤字で表記しております。具体的には、1ページ目の「明日を担う人が育つまちづくり」と2ページ目の「誰もが自分らしく暮らせるまちづくり」に変更箇所がございます。資料4の説明は以上でございますが、この体系で進めさせていただければと考えています。

続きまして、資料1「成果指標 - 第6次総合計画後期基本計画策定に係る検討 - 」をお願いします。先ほど冒頭で前回の審議会後に指標や計画の中身について府内で検討してきたことを申し上げましたが、ここでは指標についてご説明いたします。資料1の2枚目をご覧ください。現在の計画では25ある施策の中項目（テーマ）に対しまして、30の指標を設定しております。3枚目4枚目が、現在設定している30指標の一覧でございます。計画期間が経過する中でこれらの指標について課題のあることが明らかとなっていました。5枚目からは計画における指標を設定するにあたりまして、課題と考えられることについてまとめたものです。6枚目をお願いします。課題の1つ目は「指標のレベル感に差がある」ということでございます。例えばここでは2つの指標を挙げておりますが、公民館の講座数を15から30に増やそうという指標がある一方で、年少人口の減少を緩やかにして目標年度には2万6,000人台をキープしようという万単位の数値を追いかけていくような指標がございます。7枚目をお願いいたします。課題の2つ目は「把握に時間がかかる指標がある」ということでございます。例として挙げている「健康寿命」と「市全体のCO<sub>2</sub>排出量」はどちらも評価しようとする年度の2年後にならないと確定値が把握できないという指標となっております。そのため、年度が変わったら前年度の評価を行うというサイクルを難しくしております。8枚目をお願いいたします。課題の3つ目は「複数の要因に影響を受けるため、市の取組との因果関係が明確でない指標がある」ということでございます。例として4つの指標を挙げておりますが、いずれも客観的な指標ではあるものの市の取組だけで変化させられるか他の要因にも左右されないかという観点で見ますと、市の取組の成果をこれらの指標で判断するには厳しい面があると考えております。こうし

た課題を踏まえまして、10枚目からは、指標設定にあたっての方向性・手がかりについてご説明します。11枚目をお願いいたします。「「アウトプット指標」と「アウトカム指標」の違いについて」でございます。ひとまとめに「指標」と言いますが、大きく「アウトプット指標」と「アウトカム指標」に分けられます。ある課題を解決するために何か取組（活動）をした場合に、その活動量を測るのが「アウトプット指標」で、活動の先にある影響をみていくのが「アウトカム指標」でございます。ご覧いただいている11枚目の下に四角い箱が横並びに矢印でつながっている図がございます。これはロジックモデルといって、課題解決の道具として用いられるものでございます。一番左に「現状・課題」があり、様々な取組を経て、成果につながっていくという流れを示しております。指標はこのロジックモデルの真ん中にあるアウトプットから右に置くことになりますが、現行計画の指標をいくつか置いてみたところ、先ほど例に挙げた「公民館講座数」はアウトプット指標にあたり、「CO<sub>2</sub>排出量」はアウトカム指標にあたります。「年少人口」や「健康寿命」等はアウトカムの先の最終地点であるインパクトに相当するのではと考えております。事務局としましては、指標単体で考えるのではなく、こういったロジックモデルのようなもので整理しながら指標の検討を行った方が良いと考えております。12枚目は課題解決や指標設定にロジックモデルを使った例としてお示しする文部科学省の資料です。「大学進学率の地域格差是正」をテーマにロジックモデルを作成したものでございます。後ほどご覧ください。13枚目をお願いいたします。ここでは成果指標の数について触れております。現在の計画では市の様々な取組の進捗や成果を先ほど申し上げましたように30の指標で測るようなつくりになっておりますが、この数の設定を見直す必要があるのではないかと考えております。14枚目からは「総合計画の進捗管理」についてご説明します。15枚目をお願いします。計画策定と策定後の計画の進捗管理は切っても切れない関係ですので、ご説明します。現在総合計画の進捗管理という位置づけで、毎年事務事業評価を実施しておりますが、15枚目にあるような評価シートを用いまして、予算上の事業単位で評価をしております。評価対象は約500事業でございます。予算ベースであるために総合計画に記載されている主な取組の内容とうまくリンクできていないという現状がございます。そこで、次期計画における事務事業評価は、予算上の事業単位ではなく総合計画に記載されている取組単位で行ってはどうかと考えております。16枚目をお願いいたします。こちらは現在の総合計画の抜粋でございますが、一番右の「主な事業・取組」として記載されている事項が約400あり、これらに指標を設定して事務事業評価を行うことを考えております。また、一番左の「現況と課題」が173ございますが、それらごとに総合計画の指標を設定することを考えております。その指標は、先ほどご説明した事務事業評価用として設定する400近い数の指標の中からピックアップして「現況と課題」を代表すると考えられるものを選定することを考えております。17枚目をお願いいたします。11枚目の説明の中で、指標の検討にあたってはロジックモデルを活用するという旨お話ししましたが、例えば17枚目は行政経営課が所管しております「企業版ふるさと納税の活用」という取組について作成したロジックモデル風の図でございます。まず一番左の「財政需要の拡大」という課題からスタートして、自主財源確保の手段の一つとして「企業版ふるさと納税の活用」が出てきて、実際に「寄附を募る」といわゆるアウトプットを経て「寄附の受入」というアウトカム、その後に「自主財源比率の増加」やゴール（インパクト）としての「市財政の健全化」につながっていきます。アウトプット、アウトカムのところに想定されている指標が赤字で書いてあります。ご覧いただくと、課題からゴール（インパクト）としての「市財政の健全化」へつながっていきます。アウトプット、アウトカムのところに想定される指標が赤字で書いてあります。ご覧いただくと、課題からゴール（インパクト）まで一本道ではないというところがポイントで、「自主財源の確保」という課題1つ取っても企業版ふるさと納税のほかに、個人のふ

	<p>るさと納税やネーミングライツなども考えられます。また、図の右下の黄色の網掛けの箇所ですが、最終的な到達点である「市財政の健全化」には、景気の回復による税収増といった市の取組以外のことにも影響することがわかるかと思います。長くなりましたが、資料1の説明は以上でございます。</p> <p>続きまして、資料2「指標掲載例」をご覧ください。こちらは、資料1の考え方で設定した指標を計画にどのように記載するかについてのイメージを見ていただくための資料です。例としてテーマ1「結婚・出産・子育て支援」を取り上げています。ページの真ん中から下がテーマに基づく具体的な施策等が書かれた箇所でございます。まず「施策1」という括りがございまして、その中は左から「現況と課題」、「取組の方向」、「主な事業・取組」と右に行くほど具体的な内容になっていくような構成となっております。後期計画では、1番左の列の「現況と課題」ごとにそこに紐づく取組の中から1つ指標をピックアップして例示するということを考えております。ご覧いただいている例で言いますと「A」のマークがついたあたりをご覧いただきたいのですが、「結婚・出産・子育て支援」という括りに対して、1番右の「主な事業・取組」に8つの取組がございます。この中から1つ、上から5番目の取組である「積極的な子育て支援情報の提供」に関する指標である「アッピー子育て応援ナビの登録数」をピックアップして例示しております。指標をどのように計画に記載するかというイメージを共有したいと考えて資料2の説明をしてまいりましたが、どのような指標を載せる予定かという指標の一覧が資料3でございます。それでは資料3「事業・取組別指標一覧」をご覧ください。こちらは資料2「指標掲載例」でお示しした記載例の「A」のマークのところに入る予定の指標の一覧でございます。資料1でご説明した現行計画の指標の課題、指標設定にあたっての方向性や手がかりに沿って、全庁的に検討を行った150の指標でございます。検討の結果、指標が立てづらい項目、また調整中の指標もございますが、概ね出揃っております。指標について資料1、2、3において説明してまいりましたが、このような形で進めさせていただきたいと考えております。</p> <p>また、指標についての検討を進める過程で、各課からは「そもそもの「主な事業・取組」を修正した方がよいのではないか」や「取組の方向」など計画の本文についても手を加える必要があるのではないかという意見が出てまいりました。こうした各課からの本文修正の申し出や逆に事務局から各課に対しての本文修正・構成の組み換えの提案など様々な調整を経て計画の体系と本文が現在どのようになったかということをお示しするのが、資料4「体系図」と資料5「計画書（案）」でございます。資料4「体系図」につきましては最初の方でご説明しましたので、資料5「計画書（案）」をご覧ください。こちらが次期計画の本文にあたる資料でございます。指標の検討過程で本文にも修正があり、現段階でこのようになっておりますという資料でございます。まだ調整中のところがございますので、変更の余地はございますが、現段階のものとして後ほどご覧いただければと思います。2月以来の審議会のため、その間の策定作業の結果も踏まえてご説明させていただきました。本日の審議会としては、繰り返しになりますが、資料4の「体系図」で進めさせていただきたいということと指標の記載・設定の仕方の方向性の2点についてご了解いただければと考えております。長になりましたが、説明は以上でございます。</p>
八木会長	事務局からのご説明ありがとうございました。たくさんの資料がございましたが、ポイントとしては、体系の進め方と指標もロジックモデルをベースにした考え方で進めてよろしいかというお話をございましたが、委員の皆様からなにかご質問ございますか。
土橋委員	ご説明ありがとうございました。非常に重層的に把握していくながら進めるという

	<p>ことで、素晴らしい形だと思いますが、果たして担当課の職員の皆さんがどれだけ理解するのかという心配もあります。資料1の11ページのところで、わかりやすく言うと、まず事業成果というのが要するに成果指標、違う言い方で結果指標、KGI (key goal indicator) という言い方がありますけれども、それをやるために活動指標 (KPI) を職員の方がわかりやすく理解する必要があると思います。つまり、こういう事業でこういう成果を上げなければならない、そのために自分たちは何をすればいいのか、それがその活動目標ということだと思います。それともう1つ進捗管理です。結果指標というのはなかなか進捗管理の対象ではなくて、進捗管理しなければいけないのは、計画指標ですよね。活動指標、例えば先ほど子育て支援で登録数というのがありました、逆に言うと登録数はもしかすると活動指標です。だけれども登録数が増えないとしたらどういう活動をして増やさなきやいけないかという指標がまた必要になってくる。それが進捗管理ということだと思うので、職員の方が、わかりやすく自分たちが何をすればいいのか、今自分たちがやっていることが前に進んでいるのか進んでいないのかというのが分かりやすく把握できるようにするというのが、多分この仕組みだと思うので、職員の方にわかりやすく落とし込んでいく努力が必要だと思います。わかりやすくというのは、自分たちがこれをやればこの事業成果が上がるというところのストーリー作りを自分たちのものにするという努力が必要だということが職員の方に身につくようなワークをお願いしたいと思います。</p>
八木会長	土橋委員ありがとうございました。現実的な問題だと思います。
事務局 (角田課長)	資料3に示しました約150の指標で、その前提として「主な事業・取組」が約400近くあるところにロジックモデルなどをお示ししながら、担当課に作ってもらっています。ご覧いただくとアウトプット指標もありまして、アウトカム指標とアウトプット指標が混ざっているということは認識しており、なかなかアウトカム指標を出すのが難しいところもございます。
小池委員	今のところの関連ですが、そうするとこの資料3の指標名というのは、事務局としてはアウトプットが書いてあるのか、アウトカムが書いてあるのか、どちらに統一したいのか。
事務局 (角田課長)	本来でしたらアウトカムにしたいところでございますが、それぞれ取組状況もございますので、必ずしもアウトカムに統一するわけではなく、ものによってはアウトプットもやむを得ないと考えておりまして、アウトプットでもなるべくアウトカムに近いようなものが設定できればと考えております。
八木会長	よろしいですか。
小池委員	わかりました。そこをそろえた方がいいような気もしています。確かに色々な取組によっては設定が難しいものもあると思いますが、資料3を見ている感じだと例えば「明日を担う人が育つまちづくり」の中の施策4「親子向け講座の実施回数」などはそもそもインプットなのではと思うものもいくつかあります。この辺のクオリティチェックのようなものはどのように行う予定なのか、クオリティチェックの方法等を考えているのか教えていただきたい。おそらく担当課の方で色々出してきたもので、それを総合計画として1つの型にはめるのであれば、せっかくロジックモデルを参考にして各担当課で作っていただいていると思うので、うまくはまるように管理できるようにならないといけないと思う。そうするとある程度のクオリティチェックを誰かが行わなければいけなくなる。

事務局 (角田課長)	指標を 400 近く各担当課に出していた中で、事務局の中でもどの指標が良いかというものを選んで資料 3 に挙げております。担当課との調整が必要なものも少し残っておりますが、事務局としては多くの指標を出していただいた中で選んでいるため、クオリティがそれなりにあると考えております。
小池委員	資料指標の中でもう 1 個気になるところがあるって、「ゲートキーパー養成研修修了者数」や「シルバーe スポーツ体験会の開催回数」の指標の設定が 0 人や 0 回やそもそもないものというのは、どのような理由で指標が設定されているのか分かれば教えていただきたいです。
事務局 (福島主幹)	指標の基準値については、現状の数値として、例えば e スポーツなどは令和 7 年度から始めた事業であり、今後新しい情報が入り次第入れるものや、令和 8 年度から新たに行う事業等もありまして、そういうものが「- (ハイフン)」という形になっています。
小池委員	そうするとアップデートがかかる可能性があるということですか。
事務局 (福島主幹)	各担当課にロジックモデルを用いて作ってもらった上で資料を作っているものの、インプットやアウトプットまでは考えやすいですが、アウトカム指標は作る各課の理解度も関係しますし、難しいことも理解しておりますので、事務局からも指標の修正をお願いしていく予定です。次の会議の前に全体像をお示しすることになりますので、それまでの間に行っていく予定ではありますが、今ご指摘いただいたような結婚や子育て関係などのソフト事業が多いところについては、見直しができるかと考えております。ただし、例えば道路の整備、あるいは国民健康保険や介護保険、給付事業等の国の法定受託事務は、ほぼアウトカム指標を置けないので、場合によっては、指標を置かないかアウトプット指標を置くかを選択しなければいけないと考えております。
八木会長	その他ご質問よろしいでしょうか。
荒川委員	前期のどこを反省して、後期はこうするというのが出てくるのでしょうか。8 月にまた審議会があるようですが、その辺どうなのでしょうか。資料として出てくるのか。
事務局 (角田課長)	資料 1 でもご説明したとおり、課題が 3 つほどあり、1 つは「レベル感に差がある」ということで、なるべくレベルの差を縮めようと考えております。また「把握に時間がかかる指標」というものもないようにしたいと考えております。さらに「複数の要因に影響を受けるため、市の取組との因果関係が明確でない指標がある」というものもなるべく指標として置かないようにして、市の取組で成果が分かる指標を設定したところでございます。 また、指標の数は、先ほど申し上げたとおり前期では 25 のテーマで 30 だったものを「現況と課題」ごとに設定することによって 150 くらいに増えてしまいますが、それによって市の取組の進捗管理がしやすくなるのではないかと考えております。
荒川委員	変更数はだいたいどのくらいになるのですか。
事務局	変更というよりは、全改正と考えてもらえばと思います。資料 2 をご覧いただい

(福島主幹)	て、例えば1に「結婚・出産・子育て支援」というものがあり、中には2個の場合もありますが、この単位で原則1個だけ指標を置いていました。施策は1~5くらいまでありますし、そのすべてを網羅した指標が1個だけ置かれているようなイメージでしたが、色々な施策をしているにも関わらず1個の指標だけで効果を計るのは難しいということになり、その指標はやめて、資料2の表で言えば施策1の「現況と課題」に2つの指標を置くというように変えますので、指標そのものは前期計画とは全く変えていくというイメージです。
荒川委員	全部の施策ではないですよね。あるものが細分化されるということでしょうか。
事務局 (福島主幹)	今までのテーマごとの代表指標は全部変えて、施策ごとに置いていくということです。以前はあまりに網羅的にしたいということで、年少人口の減少抑制などで、結果的にどの施策が活きているのか、あるいは国の施策や社会状況の影響等で上がったのか下がったのかわからないような大きな指標となってしまっていることもあるため、代表指標をやめるということです。
荒川委員	事業数が500とかでしたか。500の事業が細分化されているということですか。
事務局 (福島主幹)	500の事業に指標としては500置きますが、総合計画には「現況と課題」で項目ごとに1つ指標を置くため、150個程度になります。
荒川委員	結構大幅なアップデートになり、第6次というのかという感じですが、冊子も大きく変わることでどうでしょうか。
事務局 (福島主幹)	基本構想はそのまま継続のため、第6次ということになりますが、構成は大きく変わると思います。どこの市町村も10年の基本構想を作り、前期と後期という冊子を作りますが、デザインも含めて大幅に変わるのが一般的です。ちなみにこの施策ごとに指標を置くというのは、第5次の後期にやっていた方法でもあります。
八木会長	何か事務局から追加のご説明はありますか。
事務局 (本郷次長)	現在の冊子(第6次前期基本計画)のお話をさせていただきたいのですが、今議論があつたところが成果指標という話になりますが、そもそも前期の計画と結構変わるのであつたところを再度説明させていただきます。 資料4をお願いします。資料4で施策の大項目、中項目、小項目とありますし、簡単に言いますとこれが目次にあたるようなものになります。赤字で書いてある部分が第6次前期計画からの主な変更点となっているため、目次部分は変わらないことになります。 例えば1番最初に上がっている「明日を担う人が育つまちづくり 結婚・出産・子育て支援」で、前期計画でいうと「結婚・出産・子育て支援」で成果指標を1個置いていましたが、これが「結婚・出産・子育て支援」として、上尾市として施策を進めてどうなったのかというところを見るために設定したものですが、実際進めていく上で、先ほどロジックモデルの話もありましたが、指標として結構レベル感にばらつきがあつた現状がございます。 そこで、ワンランク落として、このテーマという枠ではなくテーマの中の1個の施策の中で目標を立てましょうというのが今回の後期基本計画のポイントでございます。そのため本文はもちろん言い回し等が変わります。ただ、目標のレベル感が下がるだけで、大まかな冊子としては、大きな違いは生じないということになります。

八木会長	ご説明ありがとうございました。 では前島委員お願いします。
前島副会長	資料4について2点伺います。 担当課でないと答えにくいことかもしれません、「明日を担う人が育つまちづくり」の子育て支援の中で「社会的養護のこどもたち」という言葉がないのですが、これについてはどのようにお考えかまず1点目お伺いします。
八木会長	いかがでしょうか。
事務局 (角田課長)	差支えなければ「社会的養護」についてご説明いただければと思います。
前島副会長	上尾市には児童養護施設がありますよね。それから里親に預けられているお子さんがいます。また今日お見えではないですが、中央児童相談所には被虐待児の保護をする保護所があるということで、それらを「社会的養護のこどもたち」と言います。またそういうところから巣立った18歳以上のことどもたちの面倒を見ている施設もあり、そういうことについての文言が私は抜け落ちているのではないかと考えます。いかがでしょうか。
事務局 (福島主幹)	資料4の教育のところの組み換えについては、文部科学省で大元の教育振興基本計画を作っていました、それに基づいて県が計画を作り、それを踏まえて市が計画をつくるという形となっています。前期基本計画の時には市独自に項目を設定していたので、今回国・県に合わせた形で枠組みを変えたので項目が出てこなかったかもしれません、施策としては入れるべき内容かと思いますので、担当課に確認をさせていただければと思います。
事務局 (堀部部長)	資料5の2ページをご覧いただくと一番下のほうに施策2がありまして、「地域における子育て支援の強化」の「取組の方向性」に「社会的支援が必要なこどもに対する支援」とあるので、おそらくそこが、前島委員が言われたところを包括しているような部分だと思いますが、単語としてどう表現するか等あるかと思いますので、担当課の意見も聞いて検討したいと考えております。
前島副会長	ありがとうございます。もう1つそれに付随するのですが、子育て支援の施策6「児童虐待の防止」とありますが、これも細かい「取組の方向」の中にあるかもしれませんが被虐待児への支援がないということが気になるところで、この中にあればあります。虐待は防止だけではないということでご検討いただきたいと思います。 大きな項目の2点目で、同じく子育て支援で、前からそうなのですが、障害児が障害者に含まれていて、子育て支援の枠に入っていない理由を伺いたいと思います。
事務局 (堀部部長)	そこはご意見をいただいた上で世の中的にどう位置づけをしているか、他市ではどう位置づけているかということもよく調べて、次の機会のときに「このようにしたいと思う」ということをお示ししたいと思いますが、よろしいでしょうか。
前島副会長	はい。参考までにそういった障害や医療的ケアの必要なお子さんを育てているお母さまからご意見をいただいているので、皆さんに聞いてもらえたうれしいなと思う

	のですが。
荒川委員	細分化するというさつきの話の続きですが、ビフォーアフターのようなものは出てくるのでしょうか。
事務局 (角田課長)	基本的に前期と後期が変わるとには、構成は変わらないですが、指標の置き方や数が変わることはあることで、前と後で対比してということはあまりしないものと考えております。
荒川委員	前期基本計画を見ているのですが、例えばこの資料5の2ページと前期基本計画だと47ページですよね。47ページの「を目指す姿」、「テーマをめぐる社会的な状況」というのは入ってきて、あとはどこがどう変わるのでしょうか。
事務局 (福島主幹)	成果指標は先ほどご説明したとおりなくなります。前期計画では「テーマをめぐる社会的な状況」の下に成果指標や図表がありますが、後期計画では資料5の「テーマをめぐる社会的な状況」の後に、前期の施策の表と同じものを記載する予定です。この書きぶりはほとんど修正てしまっているので、もし比較してほしいとなると相当な分量になります。例えば資料4の施策の小項目の組み換えの履歴であれば作れなくはないと思いますが、一言一句にしていくと難しいと考えております。
荒川委員	全部でなくてもよいが、「ここが変わりました。その心は」のようなものがあったほうが、せっかく職員の皆さんのが幹事会、委員会でやっているわけで、その辺は出せないのでしょうか。
事務局 (角田課長)	変更のポイントを出すことはできると思いますが、今申し上げたように個々の文言ということまではなかなか難しいと考えております。
荒川委員	分量を考えればそれはそうだよなという気もしますが。
事務局 (堀部部長)	今の話は、一言一句になってしまふとボリュームもあるので、例えば「社会情勢が変わって新しい取組をするようになった」やあるいは逆に「この取組はもういらなくなつた」等、大きく変わる部分をポイントとして書き出して出すことはできるかと思いますので、そのような形で次の会議で示すということでおろしいでしょうか。
荒川委員	はい。最後に1点だけ。前期の時も委員をやらせてもらっていて、その時に尾花議員がコロナに引っ張られすぎているのではという意見があつて、今回後期計画はコロナに関することはあまりないのですか。
事務局 (福島主幹)	今回はコロナに関するることはほとんどなく、感染症のところにはインフルエンザと同じように、感染症が起きた時の体制を考える必要があるというような内容にしてあります。
前島副会長	先ほどの続きですが、確かに障害児療育支援などの方に入っていますが、そういうお子さんをお持ちのお母さんたちの意見ですけれども「医療的ケアや障害の前に子どもであることからスタートしてほしいと感じています。子育て支援の冊子を見ても子育て支援のチラシを見ても障害や医療的ケアの文言がいつもなく居場所をずっと探しています。区別せず、同じこどもとして話を進めてほしいですし、当事者の意見を入れてほしいです。」このようなご意見もいただいているので、ぜひ担当課とご検

	討いただけるとありがたいなと思いますので、よろしくお願ひいたします。
八木会長	それではそれ以外にございますか。
平田委員	<p>資料4の体系図のところで、教育が変わったのは、国の方針性が変わったからということですが、こども家庭庁ができるこどもの部分がどう変わるのが。なんとなく今まで通りで「結婚・出産・子育て」と「教育」と「青少年」で何となく世代で分かれていって、1個1個の中には含まれるのかもしれません、こどもを全体としてどう捉えてこの施策を上尾市が進めると市長をはじめ訴えているところがありますが、やはり教育が教育委員会と福祉部との連携がなかなか進まない問題が多いと常々感じている。教育は教育、子育て支援は子育て支援と分断するのではなく、オーバーラップするような形できたらいいなと思いました。担当課から上がってきたものだから難しいかもしれないが、体系が少し変わるわけですから、今までと少し違う体系が出てくるのかという期待があるのですがいかがでしょうか。</p> <p>また、5番目の「安全な暮らしを守るまちづくり」の3番目の「交通」の「交通手段の充実・自転車施策の推進」のところで、交通事故の不安を感じることなく安心して移動できるのはもちろん大切なことですが、交通手段の充実の中身が「ぐるっとくん」の利用実態を把握して進めていくと自転車だけなのですが、やはり高齢者の増加により交通弱者が増えている状況や交通不便地域が残されているということも鑑みると「ぐるっとくん」だけでよいのかという声が議会の中でもあって、社会的な状況の中では、デマンド交通の導入が進んでいますが、交通の担い手不足が厳しいということは捉えているのですが、施策の中にも入っていないのはいかがなものかと思いますが、どのように考えているのでしょうか。</p>
事務局 (福島主幹)	<p>教育の部分については、国が方針を変えたわけではなく施策の括り方を国の計画の通りにしたということで、中に入っている施策も基本的には前期と同じ施策が書かれており、教育に関しては特に変更はありません。こども家庭庁の関係で言いますと、資料4を見ていただくと第1章の中項目1「結婚・出産・子育て支援」の4番目のところに「子どもの遊び場・居場所づくり」というものを改めて作っていますけれども、これはこども家庭庁の施策を意識して置いたところでございます。</p> <p>前期計画と後期計画との変更点の話にも関連するのですが、前回の会議の時に、施策の体系を前期計画から後期計画に若干バージョンアップして変更しますということで、一度資料をお示ししております。本日の資料4は前回の2月の会議資料との変更点になってしまっているため、前期計画との対比ではありません。先ほど荒川委員からのお話もありましたので、次回の会議の際に、改めて前期計画と後期計画の変更点がわかるような資料をお示しいたします。</p> <p>2点目の交通の関係でデマンドタクシーについては、内部的にも議論させていただいた部分でもありますが、総合計画に現段階では載っていないというのは事実でございますので、改めて本日のご意見を担当課に伝えて、「ぐるっとくん」以外の他の手段の記載について、担当課と調整したいと考えております。</p>
八木会長	よろしいでしょうか。
平田委員	はい。ありがとうございました。
八木会長	その他ご質問等ございますか。
前島副会長	資料5の男女共同参画の部分の21、22ページにはあらゆる分野に女性の参画促進

	ということがあるのですが、あまり具体的ではない感じがしています。防災関連でも防災士協議会は色々なところで女性が活躍しているのですが、例えば防災の中で女性に関する言葉があるといいなと勝手に思います。実は上尾市に大きな協議会がありまして32人程度の委員がいらっしゃって女性は現状2人です。防災をつかさどる部署にも今年度初めて女性の職員が行ったということでこの計画の中で何か1つ具体的に文言が入るといいなと思ったので、ご検討いただけたとありがたいと思いました。
八木会長	よろしいでしょうか。
事務局 (角田課長)	いただいたご意見は、検討いたします。
八木会長	その他ご質問、ご意見のある方はいらっしゃいますか。よろしいでしょうか。 それでは有意義なご意見ありがとうございました。 続いて議題2その他について事務局から何かございますか。
事務局 (角田課長)	先ほど資料6スケジュールに記載しておりますが、次回の審議会は8月26日火曜日ということで予定させていただいておりますのでよろしくお願ひいたします。
八木会長	次回まで期間が短いですが、8月26日火曜日ということでございますので、皆さまご予定ください。時間は本日と同じ午前10時からということでございますね。
事務局 (角田課長)	そのとおりでございます。また、先ほど事務局が説明した体系図と指標の考え方そして記載についてはこのような形で進めさせていただいてよろしいでしょうか。
八木会長	よろしいでしょうか。色々細々としてはあると思いますが。
事務局 (本郷次長)	あくまで考え方ということです。
小池委員	考え方ということではよいと思います。
八木会長	また来月進捗を拝見できるということで基本方針はこのような形で進めるということでお願いいたします。
土橋委員	思いつき的なことを言ったら申し訳ないですが、前回の総合計画の策定の際もお手伝いさせていただいたのですが、その時初めてSDGsが出てきて、各施策とSDGsの紐づけが出てきた。今色々議論を聞いていると、これは昔からそうですがやはり行政の縦割りで施策の複数関連する指標を作る。次のステップで私の思いつきですが、上尾市独自のいわゆる横断的なテーマについて総合計画の各施策のところに「これとこれが関連している」ということがSDGsのイラストに準拠して作っていくことを次の時はぜひ考えていただけないでしょうか。 最近では、特に女性のこと等色々出ていますが、そのようなことがSDGsで括られている部分もありますが、上尾市特有のものも何かあっても面白いかなという思いつきです。
八木会長	ありがとうございます。できるかぜひご検討ください。縦割りを超えた横断的な取組を一目でわかるようなものができたら素晴らしいと思います。

	<p>以上で全ての議事が終了いたしましたので、進行を事務局にお返しいたします。</p>
司会 (本郷次長)	<p>皆さま、様々なご意見をいただきありがとうございました。次回8月までにプラッシュアップして皆様にお示しできればと考えております。 それでは最後に前島副会長から閉会のご挨拶をお願いいたします。</p>
前島副会長	<p>【閉会のあいさつ】</p> <p>以上</p>